

## 第3回むさしのまちづくり

## シンポジウム

「まちなみつうしんぼ」ウオッチング  
マドンナを訪ねて  
まちづくり活動日誌

## 第3回むさしのまちづくりシンポジウム

## 「むさしの」の新たなまちづくりを目指して 逆都市化の時代 市民と行政による協働、そして時代への挑戦

10月29日(土)藤村女子中学・高等学校多目的ホールを会場として、むさしのまちづくりシンポジウムが行われました。第3回目となる今回は、連続シンポジウム「“むさしの”の新たなまちづくりをめざして」の第1回です。この連続シンポジウムは今年NPO法人の認証を得た「市民まちづくり会議・むさしの」が、まちづくりに関する専門家、研究者、まちづくりを実践する方々のお話を伺いディスカッションして、市民や地域の力を活かした、これからのまちづくりの実践に繋げていこうと企画されたものです。

今回は、吉祥寺グランドデザイン委員会委員で東京大学先端科学研究センター教授の大西隆さんによる「逆都市化時代の武蔵野市」と題した講演でした。



講演者の大西さん

シンポジウムに先立ち、武蔵野市長になられたばかりの邑上守正新市長から、「武蔵野市ではこれからまちづくり条例の策定をめざしていますが、これを第

1号の市民参加版としたいということで、市民参加の取り組みを整理し、基本的な仕組みを議論してもらいたい」とのお話がありました。

引き続いて、NPO法人認証記念としてデザインされた当会のシンボルマーク(デザインは当会会員の宗正さん)のお披露目をしました。

以下、大西さんの講演の概要です。

逆都市化とは  
「逆都市化」という言葉は、都市の人口が減少すること



当会のシンボルマークのお披露目

を表します。世界の人口は安定化の傾向に向かっていますが、日本はそれ以上の減少傾向にあります。人口というのはある意味で都市の活動等を象徴する指標として見ることができます。都市の人口が減少していくということはこれまでのように開発をしなくてもよい、もう少しゆとりを持った計画をすることができるといような、発想の変換が起こりつつあるということになります。

吉祥寺グランドデザイン委員会での報告から

武蔵野市の人口予測をすると、

### 会員募集中

『市民まちづくり会議・むさしの』は、だれでも入会できます。お問い合わせは本会事務局へどうぞ

## 武蔵野市の少子高齢化

	2000年	2015年	2030年	2040年	2050年
人口	135,746	137,424	137,255	135,586	132,224
年少人口	14,473	14,445	13,724		
老年人口	21,764	29,688	33,102		
老年人口割合	16.0 (全日本16.9)	21.6	24.1 (26.0)		

ほぼ安定傾向にあります。老年人口の割合は増えていくという日本全国の平均的な状況になります。武蔵野市の将来の状況を老年人口の割合の推移という観点から現在見ることができるのが小樽・呉・別府といった都市です。その事例からいえることは、それぞれの町で、いつの時代でも新しいまちづくりのテーマがあり得るということです。そこで武蔵野市の特にランドデザインで取り上げた吉祥寺の場合では「若者の町から市民の町へ」ということがテーマとなりそうです。ミニ新宿といえるような繁華街から住宅地の中心にある町になり、逆都市化に対応したまちづくりを考えると、年配者のニーズなどを考慮し、広域中心としての町を考えるこ

とが必要になるようです。

逆都市化時代のまちづくり  
最初のキーワードは「環流する田園」ということです。人が減るといことは空いている土地を見たら開発しようという都会の発想が変わり、自然に戻して、生活の中に取り入れようとするかという発想になります。カリフォルニア州デービスや埼玉県越谷の新しい町の計画では、調整池を開発地の中心におき、自然環境を町に取り込むことで新しい発想の町を創り出しています。また千葉県市川地先の三番瀬では、埋め立て計画を見直して「里海」として生活に密着した海を残すことになりました。自然を如何に取り込むか、自然を如何に残すか、と

### 若者の町から市民の町へ 変わる吉祥寺

- 武蔵野市民が来街者の3割超  
22.7% (1984年)、26.1% (1993年)、**31.5% (2003年)**
- 50歳以上が来街者の3分の1  
18.0% (1984年)、30.7% (1993年)、**35.3% (2003年)**
- 庶民性から高級感、若者向きから年配向き  
没個性から個性的(吉祥寺への印象の変化)
- 駐車場(1993年1位)から自転車置場(2003年1位)・・欲しい施設の変化  
2位は文化施設。



市民参加の重要性を語る邑上市長

いった空間を見る目が変わってきているということです。国立市の住宅地は元々1区画200坪で計画的につくられた町ですが、現状は宅地の細分化が起こっています。緑の中を道路が通っていたのが、細分化されたことにより直接住宅が表に出てきてしまうというように、大きな景観の変化が見られます。土地にゆとりができてくる逆都市化の時代には、自然環境を取り込みながら町ができていくことになります。これも一つの「環流する田園」ということの例です。

### 分権と参加

ではそのような町をどのように創り出すかということを考える時のキーワードが「分権と参加」です。分権といっても、国から都道府県さらに市町村へと権限委譲するだけでは意味がなく、市民参加と分権がうまくリンクするこ





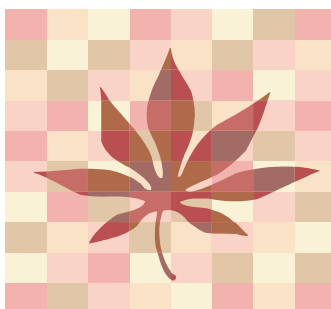
## 手足から知恵へ—参加の進化

- 「足による投票」
- 「手による投票」
- 「知恵による投票」
- 「知恵の実現」へ

とでその価値が高まります。先駆的な金沢市の例を受けて、横須賀市、国分寺市などでまちづくり条例を作ることで市民としての行使できる権限を明確にし、それが、いわば市民がつくったまちづくりのマニュアルとなっています。国分寺市ではまちづくり条例を作る際に、鎌倉市から専門職員をスカウトして行いました。これは専門職員をお互いの自治体でシェアして使うといううまい方法です。これからは条例を作ることで、個性的なまちづくりを競い合う時代になっていくと思われま



江原校長先生、ありがとうございました。



市民参加の4つのステップ  
一方、分権と対になっている市民参加については、4つのステップで考えることができます。

分権の効用により、それぞれ異なった施策を行っている行政の中から好みにあったところに住むところを決めるという「足による投票」、選挙や住民投票制度によってあるテーマによって意見を表明できる「手による投票」、公募委員やパブリックコメントなど、市民の意見を直接表明し、市民参加型で政策形成ができる「知恵による投票」という進化が考えられ、現状では「知恵による投票」という段階が多いのではないかと思われま

す。この段階では、政策の形成は参加型でできますが、それが形成されれば行政が実行することになります。そこで、これから求められるのは、「知恵の実現」ということです。再生可能なエネルギーの普及をめざす「ソフトエネルギープロジェクト」や、横浜に路面電車を走らせようという「横浜にLRTを走らせる会」などはその例としてあげられます。これらはNPOの活動ですが、都市の公益的な目的に役立つことをやろうという知恵の実現をサポートしようという自治体も現れてきています。ハンガリーの例を

元にした市川市の市民団体活動支援制度で、納税者がその税金の1%の使い道を意思表示ができるというものです。納税者にとっては、税の使われ方がわかるようになるとともに、NPO活動の財源にもなるということになり、これからの市民活動にとってはインパクトのある方向となっていきそうです。

以上が概要ですが、講演の最後に先生のおっしゃった「まちづくりは、いろいろな動きが出てきて楽しい仕事なのか・・・」という言葉が印象的でした。

最後に、このシンポジウムの会場を提供して頂いた藤村女子中学・高等学校の江原校長先生から子供と環境に関してのお話があり、約100人の参加者を集めたシンポジウムを終えました。

まちづくり条例をはじめとして、これからの武蔵野市で遭遇しそうないろいろなまちづくりに関することがらについて、じっくりと考えるきっかけとなるとともに、示唆に富んだシンポジウムとなりました。

(高田典夫・中町)

## 会員募集中

『市民まちづくり会議・むさしの』に参加しませんか。お問い合わせは本会事務局へどうぞ



## 地区カルテ部会 まちなみつうしんぼ 南町タウンウォッチング報告

11月26日(土)に暖かな日差しを浴びて、地区カルテ部会主催で吉祥寺南町の住宅地を中心としたタウンウォッチングを実施しました。

今回のタウンウォッチングは、会員6名と亜細亜大学の学生6名の計12名で実施しました。ルートは、かつては都心からの別荘的な地域であった井の頭公園北側から井の頭通りにかけて、まちの様子や現在のまちづくりの動きを見て回るもので、地区カルテ部会長の村井さんのご推薦によるものです。開始に先立ち、村井さんから、まちづくりでは市民の目線による緩やかな景観の形成も重要なこと、ウォッチングによってまちを見て考えながら歩くことで発見があること、今回はまちや通りのイメージを色や名前で表したり、キャッチフレーズをつけることを試みたいことなどの説明がありました。

それでは今回、参加できなかった方の為に順を追ってルートをだどりませう。(数字は下の地図の場所)  
スタートは井の頭公園駅( )

です。ここは昔ながらの小さな駅でドラマやCMにも使われています。井の頭公園に入り、ガード下を抜けて神田川を下流に向かいます。散歩やジョギングをする人も多く、のどかな公園の風景が広がります。北側にある南向き斜面には、後で述べるように公開空地もできていますが、フェンスで区切られて行き来できないのが残念です。そのまま直進すると、ブロックが敷き詰められた短い坂道があり( )武蔵野市に入ります。この通りの左側のお宅の生垣はきれいに整えられ、公園からの連続性があります。坂を上った交差点( )には、「みずき小路」という手作りの立て札がおいてあり、住んでいる方々のまちへの愛情を感じます(写真右上)。

この付近には、大きな一戸建てが多く、生垣の緑も厚みがあって豊かな通りです。住宅地の中としては道幅も広く、高級感が



あります。しかし、井の頭通りに向かうにつれて敷地面積が小さくなり、また、集合住宅も点在するようになって緑が減ってきます。ウォッチング後の意見交換会では、この通りは宅地細分化の進行状況を示す「バロメータ小路」であるというネーミングがありました。また緑は多いものの広い道路の割には街路樹はなく、夏は暑そうであるということから「真昼の決闘小路」とも名づけました。みずき小路の皆様、失礼しました。



さて、この通りを途中( )で西に向かいます。この通りになると区画も小さくなっています。一方で大きな区画がそのまま空き地になっているところもあります。当初はそのまま西に向かう予定でしたが、交差点( )を超えたところにマンション開発の公開空地があったため迂回しました。ここは、もともと大企業の寮があったところですが、これが4棟の大規模マンションとなり、それを囲うように公開空地ができています(次頁の写真)。これは市の宅地開発指導要綱によるものだそう





です。マンションの南側は先に述べた井の頭公園に接する空地で、ウッドデッキも作られています。このマンションは引越しが始まったばかりのようであり、今後急速にこの地区の人口が増えることと思います。さて、道路( )に戻って西に向かいます。この先で突き当たって( )北に向かいました。この付近には大正末から昭和初期のころと見られる家もあります。地図で見ると、この地域は全体が大きなブロックでその中に通路があり、いわゆる旗地になっているところもあります。今後、どのようなまちになるの

でしょうか。水門通りを南に向かい( )、踏み切りをわたってすぐに右折( )し更に右折( )します。この通りは、途中で曲がった道であり、江戸時代のあぜ道を基本とする吉祥寺地区の道路では珍しい通りです。井の頭通りのガードをくぐるために曲げられたのかもしれませんが。私たちのウオッチングは、まちや住んでいる人を勝手にほめることもテーマとしています。この道が曲がった場所にあるお宅は、この曲がりをうまく使って庭をつくり、これがこの通りのアクセントになっていると評価されました。

ウオッチングの後の意見交換会では、まちを作ってきた住民の皆さんを称える一方、今後、この地区がどのようになっていくのか心配する意見もありました。



企業の社宅や大きな一軒家の敷地が細分化され、緑は減りつつあります。元は畑のあぜ道である狭い道路に面して作られた住宅も更に細分化され、旗地が増えるのではないかと。防犯上も好ましくないし、魅力が無くなっていくのではないかと。実際、空き家や売れない土地も散見されました。

ウオッチングの成果は改めて地区カルテ部会で検討していきます。次回は武蔵境地域を対象に実施する予定です。

(森 浩・東町)

## マドンナを訪ねて 「メヌイ アン」 新井美英さん

武蔵野の地で頑張っている人、熱い人、夢に向かってる人を訪ねて、紹介をしたいと考えています。

第2回目は、三越のすぐ側にある生活雑貨のお店「メヌイ アン」のオーナー、新井美英さんです。

- このお店の特徴から聞いてみたいと思います。

もともとは、吉祥寺の中道通りで友人と共同で雑貨屋をやっていたんですが、一年程前に独立し、この場所に店を構えました。カゴや布、温かみのある手作り感覚の商品を仕入れ、一年を通して季節感のある商品を置いていきます。上から下まで空

間を使って陳列してあるので宝探し感覚で、商品と触れ合っほしく思います。そしてプチギフトのある店を目指しています。

- 雑貨屋さんの魅力とは？

昔にくらべると、手作り感のある商品を求められる人たちが増えて、完成していなくてもかわいくなりそうだなという物も

置くようにしています。ですから素材のかわいさ、暖かさ魅力のひとつで、お部屋のコーディネートまで話が膨らむこともあります。ギフトの相談や、いいなと思うことに共感してく





れるお客さん、そんな出会いも魅力のひとつです。

- お店をお出しになって一年あまりということですが、吉祥寺のまちの感想は？

草履で歩いている人もいれば、スーツ姿の人もいます。家族もいればカップルもいます。老若男女いろんな人がいるのがいいですね。欲を言えばこの地区に大きいお店が出来てくれると、もっと人の流れがよくなると思います。



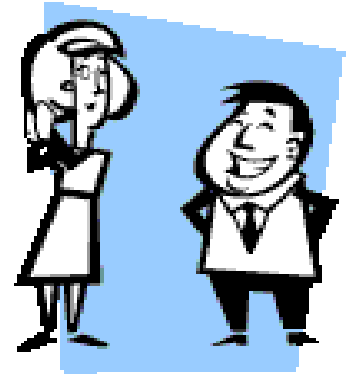
- 最後に将来の夢をお聞かせ下さい。

正直言って三十年後はすごく不安ですが、高望みをせず一歩一歩確実に行きたいと思います。仕入れの開拓、お客さんの開拓、いつかは、オリジナル商品も手がけたいですね。デパートにはない、「あーここにあったー」といわれるような物、そんなものを置ければと思います。是非一度遊びに来てください。

### 「メニュー アン」

武蔵野市吉祥寺本町1 - 20 - 25  
東永ビル1F  
TEL/FAX 0422 - 22 - 1238

小さくて可愛いお店に、土曜日というだけあってお客さんがひっきりなしの中、インタビューにお答えいただき、ありがとうございました。静かな中に情熱を秘めたマドンナでした。是非、夢に向かって羽ばたいてもらいたいと思いました。次回も夢追人の登場です。  
(企画・取材・編集：笹隈、宗正)



本紙で取り上げたいマドンナをご紹介します。

## まちづくり 活動日誌

- 10/29 第3回むさしのまちづくりシンポジウム(NPO主催)  
/ 藤村女子中学・高等学校
- 11/7 役員会 / 消費生活センター
- 11/26 地区カルテ部会  
吉祥寺南町ウオッチング
- 12/3 第4回むさしのまちづくりシンポジウム(NPO主催)  
/ 亜細亜大学

### 今後の予定

- 12/13 商業地活性化部会  
「武蔵境再開発の現状と将来」  
市民会館講座室 19時～
- 12/16-18 エバ-カデザインド部会  
「武蔵野市消費生活展」参加  
商工会館

## 事務局便り

本号の記事にあるように、10月29日にNPO主催で開催されたまちづくりシンポジウムには100名近くの方が参加されました。このシンポジウムには、市のご後援、および藤村女子中学・高等学校からのご支援をいただきました。今年度のまちづくりシンポジウムは、「むさしの」の新たなまちづくりをめざして」と題して、市民や地域の力を活かした、これからのまちづくりの実践につなげていこうとすることをねらいとしています。このシリーズは、地域との連携もテーマにしており、今後も市内の学校、事業者の皆様と連携して開催していきたいと考えています。

本会報は、メール配信を基本としています。メールアドレスを変更された方は事務局にご連絡ください。また、本会報

は転送可能です。知り合いの方に送付していただき、多くの皆様に参加していただけることを期待しています。

会費を未納の方は、納入をお願いします。お問い合わせは事務局までメール又はFAXでお寄せください。

HPページを立ち上げました。

<http://www.parkcity.ne.jp/~matimati/>

禁無断転載 転送可能

発行：市民まちづくり会議  
・むさしの

事務局

FAX：0422-53-7092

mail: matimati@parkcity.ne.jp

郵便振替口座 00180-0-388549